

授業計画（シラバス）

担当教員：Peter Baxter 客員教授

授業科目の名称	産業保健		
単位数	1 単位	授業の方法	集中講義
授業の到達目標 保健専門職のための産業環境保健学入門は以下の一般教育目標を持つ。 <ul style="list-style-type: none">• 職業病や作業関連疾患についての歴史や最近の発展についての基礎的な背景を理解する。• 職場におけるリスク評価の基本的考え方を学ぶ。• 人間技術にともなう有害因子と環境保健の相互関係についての理解を深める。• 最もよく知られた職業病や作業関連疾患の同定と管理を学ぶ。• 有害性物質や通常のアレルゲンに曝露する労働者の曝露評価と健康調査の実施方法を学ぶ。• 職場適応や疾病の労働に及ぼす影響に関連する事項を正しく認識する。• 保健医療領域における産業保健の重要性を学ぶ。			
授業の概要 経済的に発展した国における産業保健の実務は近年重工業の生産過程をより安全で汚染の少ないものにしたが、サービス業やオフィス環境での新たな問題を発生させている。同時に世界的な不況下、失業の健康影響が注目を集めている。本コースは産業保健における古典的および新たな健康阻害要因を概観し、近代的な職場における健康障害予防の方略を論ずるとともに、急速に工業化しつつある国々におけるその重要性を学ぶ。			
授業計画（各コマ 90 分） 1. 序論：職業病とその予防策の変遷（1月17日(木) 17:30-18:30) 2. 職場におけるリスクアセスメント：曝露評価と疾病への寄与（1月17日(木) 19:00-20:30) 3. 科学技術のもたらす災厄と公衆衛生（1月18日(金) 17:30-18:30) 4. 呼吸器障害、職業性喘息、珪肺、石綿肺（1月18日(金) 19:00-20:30) 5. 有害化学物質（鉛水銀などの重金属を含む）、職業がん(1月19日(土) 13:00-14:30) 6. 精神保健、ストレス、筋骨格系障害、手腕振動障害（1月19日(土) 15:00-16:30)			

7. 保健医療職場 病める医師、職業性感染 (1月20日(日) 9:00-10:30)

8. 職場適応、健康で働き続けるために、高年齢労働者の問題を含む (1月20日(日) 11:00-12:30)

※英語力や準備知識の不足で援助が必要な学生に対しては、日本人教員・TAによる補講を各講義の後に予定している。

テキスト

講師の配布資料

参考資料

Hunter's Diseases of Occupations. 10th Edition.

Editors: Peter J Baxter, Tar-Ching Aw, Anne Cockcroft, Paul Durrington, J Malcolm Harrington. London:

Hodder Arnold 2010

学生に対する評価

コース終了後に筆記試験を行う